

ひょうご・人と自然の川づくり 20年の検証

兵庫県

趣旨

平成8年 『ひょうご・人と自然の川づくり 基本理念・基本方針』 策定

治水・利水

生態系

水文化・景観

親水

●人と自然が共生する川づくりを進める

平成14年 『ひょうご・人と自然の川づくり 推進方策について』
河川審議会の答申

参画と協働の推進

河川情報の体系的な整備

川づくりの意識と技術の向上

●具体の川づくりを基礎から支える施策を、河川行政として組織的、計画的に推進する

➤ 「ひょうご・人と自然の川づくり」におけるこれまでの成果と課題をとりまとめ、今後の川づくりに活かす。

基本理念・基本方針および推進方策

《基本理念》

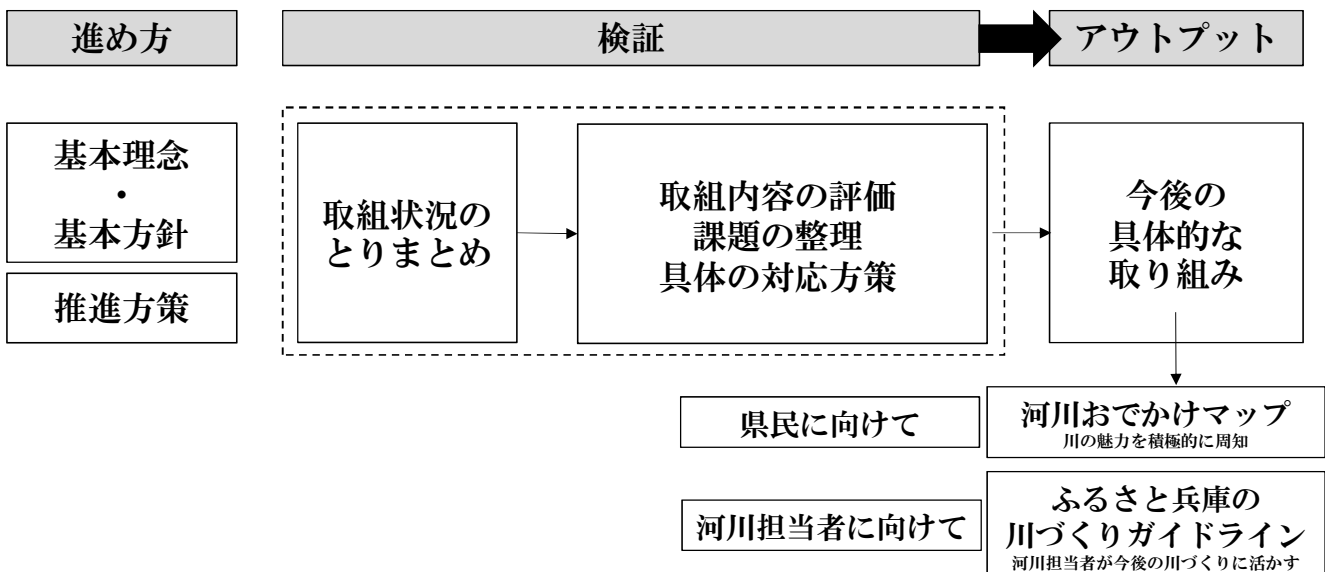
《基本方針》

《推進方策》

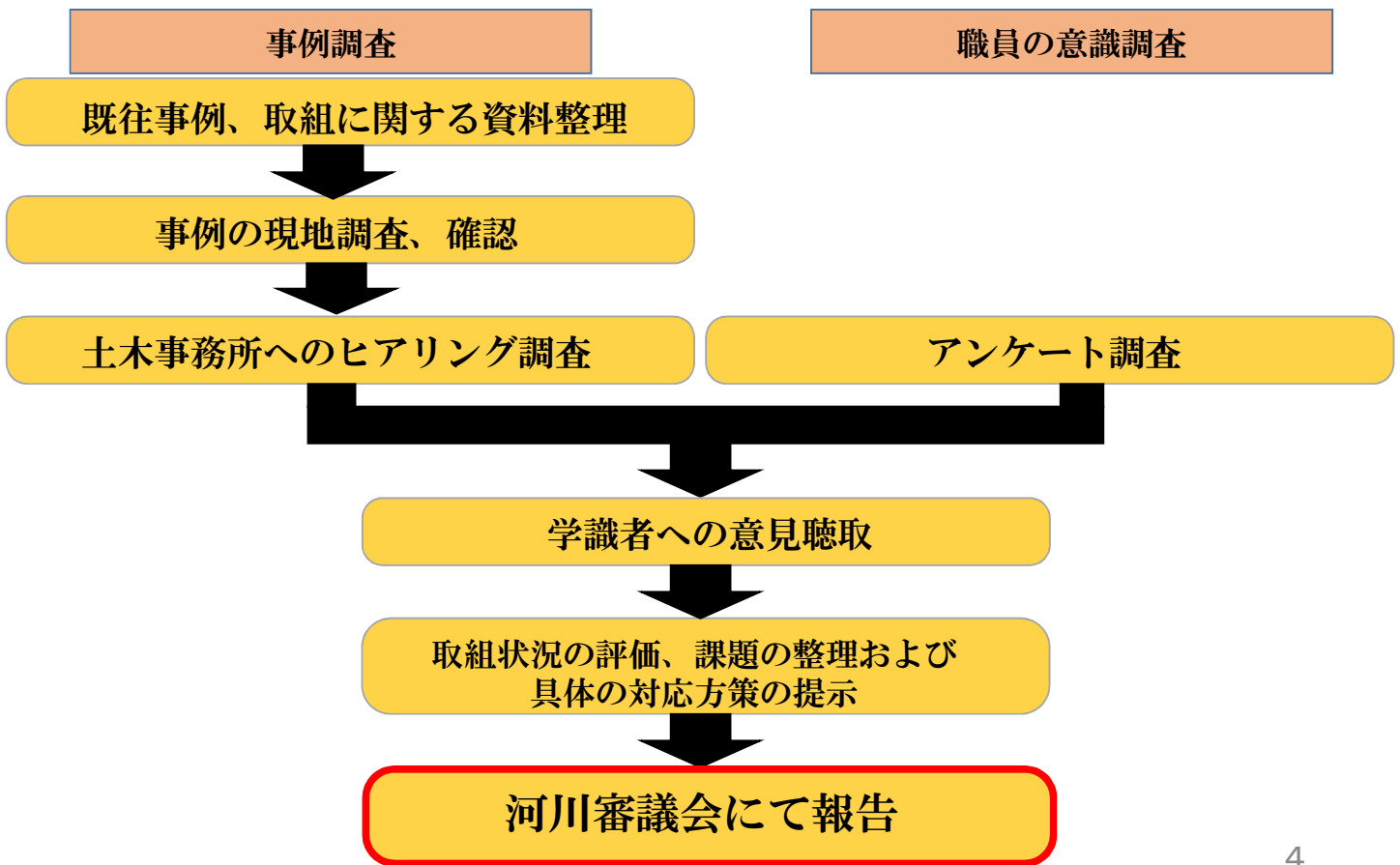
安全ですこやかな川づくり	治水・利水に関する基本方針 ●流域全体で考える安全で利用しやすい川づくり ●偉大な自然の力に対して県民がみんなでする身近な川づくり
自然の豊かさを感じる川づくり	生態系に関する基本方針 ●自然の豊かさとしみ分けを配慮した水脈づくり ●さまざまな生命を育む水と緑の水脈づくり
流域の個性や水文化と一体となった川づくり	水文化・景観に関する基本方針 ●川に沿いながら培われた歴史や文化を生かした水景づくり ●自然の美や豊かさと調和した水景づくり ●地域の自然と生活に溶け込み、あきのこない水景づくり
水辺の魅力と快適さを生かした川づくり	親水に関する基本方針 ●多彩な交流を育む多様性のある水辺空間づくり ●自然に直接ふれ、よく観察し、学習できる水辺づくり ●散らかさない、汚さない、水辺につくるきれいな生活空間づくり ●水辺への安全を目指す意識づくり



検証の流れ



検証にかかる検討フロー



4

検証結果（治水・利水）

■主な取組内容

【洪水対策】

- ・河道等のハード整備(H8: 39.8%⇒H29: 59.6%)
- ・頻発する水害に対する再度災害防止対策

【流域対策】

- ・『総合治水条例』施行(H24)
- ・校庭・公園等で約570万㎡の「ためる」対策

【河川防災情報】

- ・兵庫県CGハザードマップ等の防災情報

【津波・高潮対策】

- ・津波防災インフラ整備計画策定(H26)
- ・兵庫県高潮対策10箇年計画(仮称)策定(H31予定)

【利水】

- ・利水ダム(治水兼)整備(与布土ダム等8ダム)

【老朽化対策】

- ・ひょうごインフラ・メンテナンス10箇年計画策定(H26)

■主な評価(今後の取組の視点)

- ①近年の異常気象による災害の頻発化・激甚化
- ②様々な流域対策に取り組む一方、実績はまだ不十分
- ③洪水浸水想定エリア内で新たな土地利用が発生
- ④様々な防災情報が、防災行動に十分活かされていない

< H30県民意識調査より >
CGハザードマップ
認知度：30%程度
利用者：10%未満



■主な課題

- ①気候変動を踏まえた河川・内水対策の着実な推進
- ②効果の大きい流域対策への重点化
- ③洪水浸水想定エリア等での土地利用への配慮
- ④災害時の住民行動に必要な情報の提供

■対応事例等

- ①災害を未然に防止するための河川対策(堤防、高潮対策、護岸健全度確保、長寿命化等)を計画的に推進
- ②既存ダムの有効活用・ため池治水活用の拡大促進
- ③災害リスクに応じた土地利用のあり方の検討
- ④CGハザードマップ等の更なる活用PR

検証結果（生態系）

■主な取組内容

【多自然川づくり】

- ・種の保存、多自然川づくりの実施
- ・「ひょうごの川・自然環境調査」の実施
- ・県独自の技術資料の作成・活用



オサンショウウオの保護
(出石川)



ハイモの保存
(田君川)

■主な課題

- ①整備した施設の適切な維持管理の実施
- ②小規模工事で取り組む自然再生、維持管理できるレベルの自然再生の推進
- ③自然環境に精通した学識者との連携
- ④河川担当者の意識の醸成・技術の習得、これまで蓄積されてきた技術の継承

■主な評価（今後の取組の視点）

- ①維持管理が不十分な保全対策工では施設の機能が低下
- ②河川維持の担い手(行政・地域)の減少
- ③多分野の専門家と行政(河川担当者)の交流や連携が少ない
- ④若手職員が自己研鑽できる機会・制度が限られている

■対応事例等

- ①定期的なモニタリング調査の実施による適切な維持管理
- ②自然環境調査を活用した実務的な技術資料(ガイドライン等)の作成
- ③学識経験者、大学等との連携の仕組みづくり
- ④現場研修の充実、技術力の向上や河川環境のノウハウを継承する仕組みづくり

2

検証結果（水文化・景観）

■主な取組内容

【河川の特長を活かした水景づくり】

- ・景観に配慮した護岸工(佐用川(平福)、大谿川(城崎温泉))
- ・貴重な土木遺産の保存・活用(湊川隧道)
- ・地域の水文化の復活(千種川(高瀬舟まつり支援))
- ・かわまちづくり(有馬川・揖保川)
- ・ふるさと桜つつみ回廊の整備(円山川等)
- ・和紙づくり体験と合わせた親水護岸(杉原川)

■主な評価（今後の取組の視点）

- ①水文化・景観を川づくりにさらに活かしていく必要がある
- ②維持管理が不十分であれば景観が悪化
- ③河川に関する水文化・歴史の伝承が地域においてもできていない
- ④県民の川への興味が薄れている



ふるさと桜つつみ回廊 湊川隧道の保存・活用

■主な課題

- ①地域の水文化・景観を保全・活用した河川の整備
- ②河川の特徴を生かした良好な河川景観を維持
- ③河川にかかわる水文化・歴史を守り、次世代へと継承
- ④川への関心を高め、親しむ心の醸成

■対応事例等

- ①地域の水文化・景観に配慮のための既存資料の活用
- ②地域の自主的な維持管理活動を促すための河川愛護意識の醸成
- ③河川にまつわる水文化や優れた景観のPR
- ④川への興味を高めるため、地域が実施するイベント等の支援

3

検証結果（親水）

■主な取組内容

【親水空間づくり】

- ・親水護岸等の整備（都賀川、住吉川、生田川、春來川など）
- ・防災ふれあい河川事業（住吉川など）
- ・水辺の楽校（揖保川、円山川など）
- ・かわまちづくり（有馬川、揖保川）

【河川美化・愛護】

- ・ひょうごアプト、川のクリーン作戦等

【河川の安全利用】

- ・注意喚起看板や回転灯の設置（表六甲河川など）

■主な評価（今後の取組の視点）

- ①県民への親水公園・施設等の周知不足により利用者が少ない
- ②維持管理が不十分な箇所では親水性が低下
- ③河川の美化意識は高いが美化活動への参加は低水準
- ④河川出水時の退避行動について、住民の安全意識が薄れつつある



回転灯、電光掲示板(都賀川)

<都賀川：河川利用者アンケート>
回転灯稼働時に退避した割合
H27：79%⇒H28：91%⇒
H29：95%⇒H30：84%

■主な課題

- ①親水に対する住民の興味・関心の向上促進
- ②地域特性に応じた親水空間の整備・維持
- ③川を汚さない意識の醸成と、美化活動への住民参加の促進
- ④河川利用者の水難事故の記憶を風化させないための住民への周知・浸透

■対応事例等

- ①人を川へいざなうためのツール作成とPR
- ②河川利用者のニーズを踏まえた整備と持続的に維持管理できる仕組みづくり
- ③住民に河川美化への意識を高めてもらう仕組みづくり
- ④河川の安全利用のための啓発の継続